

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 97

2025.8.9 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

97回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

日 時：令和7年6月28日（土）

午後1時30分～4：00

場 所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）TEL：0568-56-1943

テーマ①『西山たたら遺跡は何を語る』梶田 正直氏（たたら研究会会員）

春日井市西山町の一角に古代製鉄の遺跡があることを、殆どの市民は知らないと言ってよいでしょう。近年、地元の研究者達によって、その研究は進み、全貌が徐々に解明されてきています。一刻も早くこの貴重な遺跡群を保全、保護し、多くの市民に知ってもらうべきだと思います。地域の特色、研究の現況を話していただきました。65,77,90回フォーラムの続編です。

90回フォーラム
(2024.10.20)
中日新聞記事



97回フォーラム風景

テーマ②『「Heritage」について考える』

河地 清 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

文化財の保護、継承について考える。市民意識は、文化財の保護、継承の関数である。

《講演要旨》

西山遺跡とは

西山遺跡では、7 世紀末から 8 世紀初頭にかけて製鉄が始まったとされており、出土遺物や土壌の分析などから、9 世紀には鑄造（溶かした金属を鑄型に流し込んで製品化する工程）も行われていた可能性が高いと考えられています。これは、単なる製鉄工房ではなく、鉄素材の精錬から鑄造による製品加工までを担う総合的な鉄加工の拠点であったことを意味します。

また、西山遺跡の立地は、古代の国家幹線道「東山道」の沿線に位置しており、この交通路は奈良の中央政権と東国を結ぶ国家の物流・軍事・行政の大動脈でした。このルートを通じて、製鉄に必要な技術者や資源が各地から移動し、製鉄品や半製品が広域に流通していたと推定されます。

当時の律令国家は、こうした製鉄拠点に対して中央から技術者を派遣し、技術の標準化や生産体制の統制を図っていました。製鉄はもはや地域の伝統技術ではなく、国家によって管理され、制度化された生産工程だったのです。西山遺跡がこのネットワークの一端を担っていたとすれば、春日井の地はまさに国家戦略上の鉄供給地であったと言えるでしょう。鉄は、武器や農具、建築資材など、国家の安全保障・農業政策・都市建設を支える不可欠な資源であり、その供給なくして律令国家の存続はありえませんでした。製鉄の現場には、高度な技術とともに、自然への畏敬や神への祈りが共存しており、労働と信仰が一体化した空間であったことも見逃せません。

このように西山遺跡は、単なる生産の場ではなく、**国家・技術・交通・信仰が交差する“戦略的文化遺産” **として、現代に大きな示唆を与えているのです。

京都・伏見稲荷又、時の国家と春日井市の関係

春日井市東山町に鎮座する松原神社は、かつて「高牟稲荷大明神」と称され、古くから製鉄や鍛冶に関わる信仰を担ってきた神社です。特に注目すべきは、京都の伏見稲荷大社と同じ和銅 4 年（711 年）2 月初午の日に創建されたと伝えられている点であり、このことは松原神社に残る**縁起書（由緒書）**にも明記されています。

この「同年同日」の創建は、偶然の一致ではなく、国家による宗教政策と生産統制の一環としての意味を持つものと考えられます。奈良時代初期、律令制度の整備とともに、朝廷は国家の根幹を支える資源である「鉄」と「農」を精神的にも支える必要がありました。そこで登場したのが、五穀豊穰・商業繁栄・金属加工の守護神とされる稲荷神です。伏見稲荷の創建と同時期に、鉄の生産地である春日井の地にも稲荷が祀られたという事実は、春日井が国家的に重要な鉄供給地として位置づけられていたことを如実に物語っています。実際、松原神社の古文書には、ある鍛冶職人が**「稲荷山の埴土（粘土）は刃を鍛えるのに最適だ」と気づき、以後朝夕に神に礼拝するようになった**という逸話が記されていま

す。この記述は、製鉄・鍛造という高度な技術が、単なる作業ではなく、祈りと精神性と共にあったことを示しています。

また、松原神社が鎮座する東山町には、7世紀末～9世紀にかけて稼働していたとされる西山製鉄遺跡が存在します。そこでは国家規模の鉄生産が行われていた可能性が高く、松原神社と西山遺跡の近接は、鉄の生産とその精神的支柱である信仰が一体であった証左とも言えるのです。

このように、松原神社と伏見稻荷の“同時創建”という伝承は、春日井市東山町が鉄と祈りの交差点＝国家に選ばれた地であったことを現代に伝える、極めて重要な歴史的メッセージを含んでいます。

村上教授の研究と西山遺跡の再評価の動き

西山遺跡の歴史的意義が再び注目されるきっかけのひとつとなったのが、愛媛大学 東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通（むらかみ やすゆき）教授による研究です。

村上教授は、古代日本における製鉄技術と国家の関係を長年にわたり研究してきた第一人者であり、**NHK の特集番組「アイアン・プラネット」や「アイアン・ロード」**といった鉄に関する歴史・文化番組にも出演・監修するなど、専門知識を一般にわかりやすく紹介する活動も積極的に行っています。

その村上教授は、西山遺跡を「日本古代の鉄文化を読み解く鍵」と位置づけ、特に近江（現在の滋賀県）で発展した**「近江型製鉄炉」**の技術が、春日井を含む尾張地方へ伝播していた可能性に注目しています。西山で確認されている炉の構造や技術的特徴は、近江地方の製鉄遺跡と多くの共通点を持ち、それが単なる地域技術ではなく、国家主導の技術移転の一環であったことを示しているといえます。

さらに、西山遺跡からは9世紀に使用されたと見られる鋳型も出土しており、当初の製鉄に加えて、後には鋳造（溶かした鉄を型に流す技術）も行われていた可能性が高まっています。現在のところ鍛造の痕跡は確認されていませんが、それでも素材生産から製品加工までを担う複合的な鉄工拠点としての発展があったとすれば、西山遺跡は極めて先進的な鉄の生産・加工の場であったこととなります。

こうした学術的評価に加え、もし将来的に西山遺跡周辺で同様の遺跡が複数確認されれば、春日井市は古代における「鉄のまち」として再び脚光を浴び、国指定史跡への格上げも現実味を帯びてきます。これは単なる地域の話題ではなく、日本全体の古代史を見直す鍵となる発見につながるかもしれません。

第2の遺跡発見がもたらす決定的意義

西山遺跡に次ぐ「第2の遺跡」が春日井市内で発見された場合、その形式や規模にかかわらず、春日井の歴史的位置づけは劇的に変わります。

たとえば、鋳造炉の遺構が確認されれば、すでに出土している9世紀の鋳型と対応する実働炉と

して、全国でも極めて希少な例となります。9世紀の鑄造遺構はこれまで全国的にも数えるほどしか確認されておらず、春日井がこの時期に鑄造技術を有していたという事実は、東海地方が鉄鑄造の先進地であったことを示す重要な証拠となります。技術水準や炉の構造が明らかになれば、古代日本の金属加工技術の地域差・発展経路を再考させる大きな学術的価値を持ちます。

また、仮に大鍛冶工房が見つければ、それは西山遺跡が製鉄から鑄造、さらに鍛造（打ち延ばして形を整える工程）にまで関わっていた、総合鉄加工の拠点であったことを示唆する決定的証拠となります。大鍛冶遺跡には鍛冶炉・金床・鉄滓・木炭窯跡・鍛冶工具などが確認されるのが一般的であり、これらの出土があれば、春日井は単なる素材の生産地ではなく、製品製造の最終工程まで担っていた国家の実働拠点であったことが明確になります。このような遺構は全国でも数例しかなく、史跡指定の有力候補となることは間違いありません。

さらに、西山と同型の製鉄炉が複数発見された場合には、春日井地域が律令国家における計画的な鉄供給ネットワークの中核として位置づけられていたことが証明されます。単独の工房ではなく、同時期に複数の炉が稼働していたことは、国家が人員・資材・技術を集中投入していた可能性を示しており、これは古代の産業政策や地方行政の実態を解明する上で、極めて重要な手がかりとなります。特に、近江型製鉄炉との技術的類似性が認められれば、春日井は国家技術の伝播と展開を示す東海地方の代表例として、歴史的再評価を受けることになるでしょう。

そして重要なのは、これらのいずれの形式であったとしても、それはすでに“国指定史跡レベルの価値を持つということです。

つまり、発見された瞬間から、春日井は「ただの住宅地」や「静かな地方都市」ではなく、“日本の鉄を支えた国家戦略拠点”として、全国的に歴史的再評価を受ける土地へと変貌するのです。しかし、現実には都市開発が進み、これらの未発見遺構は今この瞬間にも破壊されかねない状況にあります。

発掘される前に消えてしまえば、それは永遠に「なかったこと」になってしまいます。

だからこそ今、明確に申し上げたいのです。

春日井市は、この“第2の発見”に備えて、調査と研究、そして文化財の保護体制を強化しなければなりません。

行政まかせでも、研究者まかせでもなく、市民一人ひとりがこの歴史的意義を共有し、地域ぐるみで守るという意味を持つことが必要です。

この地に残された痕跡は、1300年前に国家とともに歩んだ**「春日井の誇り」です。それを未来へつなげられるかどうかは、私たちが今ここでどう動くかにかかっているのです。

西山遺跡が現代に語りかけてくるもの

西山遺跡は、ただの古代の鉄づくりの痕跡ではありません。

そこに刻まれているのは、国家とともに生きた技術の記憶であり、人々の祈りと労働の結晶です。この場所では、自然の資源が燃やされ、鉄となり、武器となり、農具となり、都

を支え、国を動かしました。しかし、その背景には必ず、目に見えない人々の努力と祈り、そして信仰の存在がありました。

西山は語っています――

「鉄をつくることは、国を支えることだった」

「この地は、国家に選ばれ、託された場所だった」

「人々はただ働いただけではない。神に祈り、土に学び、火に向き合って生きたのだ」と。

西山遺跡は、技術と信仰、国家と地域、労働と精神、あらゆるものが交差した場所です。それは私たちに、**“地域の中にこそ国のかたちがある”**という歴史の真理を教えてくれます。そして今、私たちがその声に耳を傾けるならば――それは、ただ過去を振り返るためではありません。それは、未来にこの土地の価値を繋ぐための第一歩なのです。

春日井市は「何もないまち」ではありません。

むしろ、これから新たな歴史が“書き加えられていく”、可能性に満ちたまちです。

西山遺跡がそうであったように、ここにはまだ語られていない物語が、土の中に眠っているのです。西山が語る声を、私たちは聞き逃してはなりません。

それは 1300 年前から届いている、“歴史の声”なのです。（梶田正直氏寄稿）



発掘時のたたら遺跡（現在は埋め戻されている）現在

は、教育委員会が説明板を設置している。

OPINION

『「Heritage」について考える』－文化・歴史的価値とは－

文化財の保護、継承について考えてみたい。市民意識は、文化財の保護、継承の関数であると言われています。1950 年「文化財保護法」が制定されました。1968 年には文化庁が設置され今日まで多くの文化財が保護の対象になってきました。有形、無形、民族文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ育まれ、今日まで守り伝えられて来ました。貴重な国民的財産です。今日では、地域の資産（共有財産）とは地域にある歴史資産（Heritage）を現代の資産（Property）にするという発想が必要であると考えられるようになってきています。地域の歴史、地域の文化的特色は、そこにしかない Only One の財産＝資産であることを活用してゆくことが新しい「まちづくり」の発想であることも定説となってきています。Heriperty(heritage と property の合成語)は、東大名誉教授月尾嘉男氏が唱えた言葉です。

平成 26 年 4 月 5 日（土）春日井市東部市民センターで講演『情報化時代とまちづくりー100 年単位の目標転換ー』（2015.4.5「ふるさと春日井学」講演「会報：特集号」）の中で講演されました。遺産（heritage）は地域の資産(property)である。文化、歴史を大切にしない地域に未来も発展もないということを語られました。

しかし、残念ながら今日、文化財に無関心になっていっている現実もあります。高額な修理費、安全の確保、後継者不足、費用対効果といった経済優先の壁に阻まれて維持保存すら出来なくなっている文化財及び文化的価値を持った多くの未指定文化財、登録文化財が危機に直面しています。過去には、市の指定文化財であった歴史建造物「郷土館」（飯田重蔵離れ屋敷）も解体されることが決定されました。さらに、そんな現実の中で、春日井市熊野町にある国指定文化財「密蔵院多宝塔」の競売宣言が報道され地域の人々に衝撃を与えました。



この記事を読んで、行政側の文化財課と経済振興課の文化財に対する見解の温度差も気になるところではありますが、行政に文化財を守るといふ本質が理解されていないことに違和感を覚えました。国宝級の文化遺産を護れない状況は何かがおかしいのでは。正常な状況ではないのでないか。「何がそうさせているのか」「誰がそうさせているのか」真実を市民は知りたがっている。土地地区画整理組合も行政も 20 年近くも善処への努力を怠ってきたことは、田村 圓心 氏（尾張密蔵院院主）の「にっちも、さっちも行かない」の言葉に凝縮されています。（「95 回フォーラム」）歴史文化を大切に、地域の財産である文化財を護るといふ本質的な考えさえあれば、解決は難しくはないのではないかと。事ここに至った今日、関係者の不作為の責は免れないのではないかと。今後の動きに注目して行きたい。地域の歴史、文化に対して無関心にならない、そして、その価値を「知ること」が「地域の財産」を守ることに繋がるのです。「市民意識は、文化財の保護、継承の関数である。ふるさと意識なくして地域活性化なし」と言えます。（文責：河地 清）

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学 検索